

IV-20

港における親水性、癒しに関する研究～秋田港を例として～

秋田大学 学生員 ○千田 一俊
秋田大学 正会員 木村 一裕
正会員 清水浩志郎

1. はじめに

港などの水辺空間は人々に癒しをもたらす空間であるといえるが、同じ用途の空間であっても、周辺の環境や空間に置かれた設備やそのデザインなどの違いによって、そこから受ける印象は著しく異なることが多い。本研究は、港空間の癒し機能について、秋田港と国内のいくつかの港との比較により、癒しを感じることでできる空間づくりについて考察することを目的とするものである。研究の流れとして癒しのヒアリング調査を行い、そのデータを元に港の癒しと空間デザインについてのアンケート調査を行う。また、港の土地利用やその特性を分析し、空間上の特性や評価を行い考察する。

2. 空間から受ける癒しの感覚

本研究では、港空間の癒し機能について秋田港と国内のいくつかの港を比較するため、はじめに各港の特徴、土地利用の特徴を整理した。これとは別に、水辺における「癒し」の感覚を記述するため、ヒアリングを行い9つの項目を抽出した。その後学生を対象として、各港空間の写真図3を用いて、空間から感じる癒しの程度や癒しの演出に効果をもたらしている要素、癒しを阻害している要素を分析した。

図1に水辺における港の癒しの感覚について、アンケート結果をしめしている。「爽やかな気持ち」や「気分が安らぐ」、「日常を忘れる」などの項目において、癒しを感じるという回答が多く見られた。

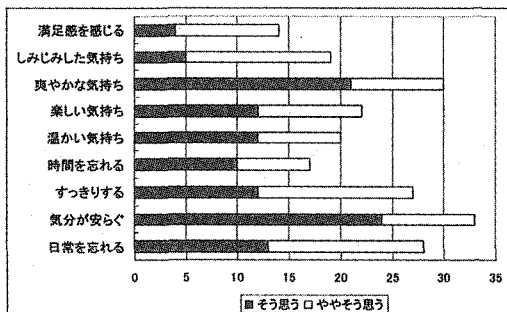


図1 癒しを感じる時の感覚

3. 国内の港空間における癒し機能

国内の港湾周辺の建物や土地利用の状況を調査し、土地利用特性を分析した。各港の周辺の土地利用と特徴を表1に示す。

表1 港湾周辺の土地利用と特徴

港湾名	公園	広場	施設	その他	特徴
青森港	5	4	7		公園や広場、施設が整っており、多くの目的に利用できる。
門司港	13	2	11	倉庫13	海沿いに倉庫が並び、レトロな街並みとなっている。
尾道港	0	0	6	桟橋4	海沿いに桟橋やウッドデッキがあり、水辺が身近に感じられる。
室蘭港	10	6	12		公園や広場、施設が整っており、多くの目的に利用できる。
酒田港	5	2	9		施設が比較的整っており、親水空間も整っている。
秋田港	3	0	6		公園や広場、施設が少なく、工場やコンテナエリアが多い。

青森港や室蘭港は施設が充実しており多くの目的に利用できる。門司港は海沿いの倉庫などによりレトロな街並みとなっている。尾道港は、海沿いに桟橋やウッドデッキがあり、水辺が身近に感じられる。しかし、秋田港は公園や広場、施設が少なく、工場やコンテナエリアが多い。

また駐車場などの土地利用に関しては、青森港や尾道港のように駐車場が少し離れている型と、秋田港のように港近くの型がある。秋田港は車が自由に海沿いに止めることができるが、そのことが結果的に空間の特徴や用途がはっきりしないことに繋がっており、秋田港は特徴ある土地利用をしているとは言いがたい。

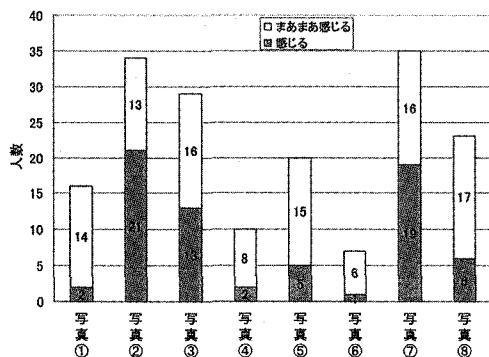


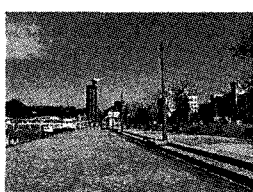
図2 写真からどのくらい癒しを感じるか



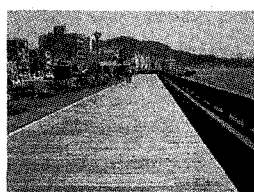
写真①



写真③



写真⑤



写真⑦



写真②



写真④



写真⑥



写真⑧

図3 アンケートに使用した港の写真

次に各港の癒しを感じる程度を図2に示す。この図から写真②、③、⑦がいずれも高く評価されている。そこで、写真⑦とこれに似た空間である⑧の評価内容を比較する。写真⑦の癒し項目の評価として表2をみると、癒しを感じる要素として一つに「緑があること」があげられており、芝、樹木、花などがあることにより、「癒しを感じる」と評価されている。このような評価は整備されている場合に限られるもので、写真①では整備されていないために感じないという回答が多くみられた。

また、「海沿いをウッドデッキで歩けること」や「ウッドデッキが広がっていること」など、海沿いに使われている素材や開放感により高く評価されていることがわかる。

表2 癒し項目の評価

	癒しの要素	人数	
		写真⑦	写真⑧
共通項目	船が見えること	10	10
	海が見えること	16	23
	空が広いこと	13	19
	水辺が近く感じられること	14	16
	波の音が聞こえるような感じ	14	18
	風を感じられそうなこと	15	15
	潮のにおいがしそうなこと	9	8
類似項目	樹木があること	10	
	芝があること	22	
	花があること	23	
	遠くに緑があること		7
	手すりがあること	8	
非共通項目	木のベンチがあること	23	
	海沿いをウッドデッキで歩けること	24	
	ウッドデッキが広がっていること	29	
	コンクリートの歩道があること		5
	街灯が空間のアクセントになっていること	12	
	階段があること		3
	建物が見えること	2	
	船の音が聞こえそうな感じ	7	
	ウッドデッキを歩くと音がすること	15	

次に同じ歩道の写真⑧の評価が写真⑦よりも低い理由として阻害要因の表3をみると「コンクリートの歩道」が阻害要因としての回答が多く、次いで「歩道が狭い」「座れるスペースがない」と空間の広さや材質に意見が集中した。コンクリートの多い空間の写真④、⑥の阻害要因からは「寂しい」「冷たい」「自然が感じられない」というイメージを受けていることがわかった。

表3 癒しの阻害要素

	阻害要因	人数	
		写真⑦	写真⑧
共通	景観	1	1
	建物	2	
非共通項目	コンクリート		7
	狭い		3
	座れるスペース		2
	人工的		2
	鉄の手すり		1
	工業地帯		1
	船		1
	緑がない		1

4. まとめ

以上の結果より、港の癒し機能について、秋田港を例にすれば、空間の利用目的の明確化とその境界をはっきりすることである。また緑やベンチ、歩行空間など、その空間のデザインについても、自然素材を用いた質感の向上や全体的な調和などに配慮した空間整備が必要であることが明らかとなった。

今後の課題としては、若い人のみならず、壮年層など多世代の評価について検討する必要があるといえる。